



BlackLine を活用し、 SAP S/4HANA に効率的に移行

チューリッヒ・ノースアメリカ、ERP の移行プロジェクトに BlackLine を活用、
移行プロセスの効率化と内部統制の強化を実現



「BlackLine は、システム移行時の信頼性と継続性を確保する原動力となりました。
当社の監査人にも大変好評でした」

ーダグ・トランプ チューリッヒ・ノースアメリカ 財務システム&業務改革担当ディレクター

チューリッヒ・ノースアメリカは、法人および個人向けに保険商品やサービスを提供する業界最大手の保険会社である。法人顧客は農業から建設業まで多岐にわたり、フォーチュン 500 企業が 90%以上を占めている。

また、フーバーダムやコンフェデレーションブリッジなど、北米で特に有名な建造物の建設も支援している。

導入前の課題

保険業界は、いくつかの意味で大きな変革期にある。テクノロジーによって事業運営や業務の効率化が急速に進んでいる。また、新しい会計基準の導入が予定されており、チューリッヒも適用に向けた準備と、会計システム更新の必要性に迫られていた。

同社は、顧客の期待を超える商品やサービスを提供するため、絶え間ない努力を続け、これまでに蓄積された知見と広く収集した情報を組み合わせて進化する市場を予測し、即座に対応できる態勢を整えようとしていた。

業種

保険

地域

北米に導入し、グローバルで利用

導入時期

2011 年

使用 ERP

SAP R/3 & ECC (1999 ~ 2018 年),
SAP S/4HANA (2019 年~現在)

ユーザー数

世界全体で 650 人

導入機能

勘定照合、タスク管理、差異分析、マッチング

成果

- ・ SAP S/4HANA への移行を 2 年で完了
- ・ IFRS17 に対応したパラレル元帳を導入し、増加した照合作業の 98%を自動化
- ・ 追加データの入力や再入力することなく、新旧システム間の継続性や透明性を維持
- ・ 160% 以上増加した照合件数に、人員を増加することなく対応
- ・ 将来の自動化の拡大に向けて、追加のユースケースを作成

「SAP S/4HANA への移行前に BlackLine を導入することをお勧めします。BlackLine は、旧システムから新システムに移行した際の勘定残高の検証だけでなく、内部統制管理にも大いに役立ちます。」

—ダグ・トランプ チューリッヒ・ノースアメリカ 財務システム&業務改革担当ディレクター

新たな ERP システムへの移行は、多くの場合、何年もかかる大がかりな業務である。しかし、企業は移行期間中も内部統制とコンプライアンスを維持する必要がある、その効率性を高めることがコスト管理の鍵を握る。これは、新しい会計基準の導入など、法規制やルールの変更に直面している企業にとっては特に重要である。

IFRS に基づいて財務報告を行う保険会社は、2023 年 1 月までに IFRS 第 17 号（保険契約に関する新しい国際財務報告基準）を適用することが求められている。チューリッヒ・ノースアメリカは、IFRS 第 17 号適用に向けた準備と移行を進める間、2 つの元帳を並行して運用し、それぞれに財務報告を行う必要があった。そのことが旧 SAP システムから SAP S/4HANA に移行するという同社の決断を後押しした。

チューリッヒ・ノースアメリカの財務システム&業務改革担当ディレクター、ダグ・トランプ氏（CPA、CGMA）は次のように述べている。「当社は、4 つの異なる会計基準が適用される 170 もの勘定元帳を SAP S/4HANA で管理する必要がありました。会計基準の変更を前に、当社のシステムを更新しない限り、長期的に業務量が増加していくことが予測されました」

SAP S/4HANA が持つ豊富な機能とメリットにもかかわらず、複数の元帳を作成しなければならないということは、一部の業務で一定期間、会計スタッフの負荷が大幅に増加することになるとトランプ氏は考えていた。また、システムの移行に際して、すべての会計データに対するコンプライアンス、内部統制、可視性を確保するためには膨大な量の手作業が必要になると推測していた。

「経理部門の部門長は、複数の会計基準に準拠し複数の元帳を運用することが、経理業務に大きな影響を及ぼすことになる」と認識していました。例えば、毎月の勘定照合の件数は 160% 以上増加する可能性があり、抜本的な解決策を考えなければいけないことは明らかでした」

—ダグ・トランプ チューリッヒ・ノースアメリカ 財務システム&業務改革担当ディレクター

チューリッヒは常に現状打破を目指し、正確性やコンプライアンスを犠牲にすることなく効率性を高める革新的な方法を模索している。課題への解決策を探る中で、同社は第三者のコンサルタントと契約し、同様のシステム移行を経験した他の企業や類似の状況にある企業の話聞くことにした。

「提案されたどの解決策も、私たちの納得のいくものではありませんでした。どの選択肢を選んでも、当面の間、会計スタッフの作業量やメンテナンスの負荷が増えることには変わりはありませんでした。私はもっといい方法があるはずだと考え続けました」（トランプ氏）

チューリッヒは、2011 年よりすでに複数の BlackLine ソリューションを導入しており、地域ごとの要件に対応しながら、世界中の拠点の決算を一元管理していた。このことにより、チューリッヒ・ノースアメリカは 170 ものグループ会社を有しているにもかかわらず、内部統制の強化と可視性の向上を実現している。

「BlackLine を導入する以前、勘定照合は非常に面倒な作業でした。BlackLine のおかげで、勘定照合が容易になっただけでなく、決算業務全体における内部統制管理を確実に強化することができました。SAP S/4HANA に移行する際にも、同様の成果が実現できると考えました」（トランプ氏）

BlackLine は、チューリッヒにとってユーザーフレンドリーで機動性が高く、信頼できるソリューションとして認識されていた。そのため、適用業務の拡大とともに、ERP 移行のサポートのために BlackLine の追加機能を導入することに経営陣も支持を表明した。

そして、チューリッヒ・ノースアメリカは、SAP S/4HANA への移行に伴うスタッフの作業負荷を軽減するため、移行プロセスのコントロールセンターおよび自動化ソリューションとして BlackLine の採用を決定した。トランプ氏と彼のチームは、BlackLine のアドバイザーから支援を受け、既存の勘定科目構成を新しいシステムにマッピングし、新旧システムを通じてポリシーや手順などの履歴を維持するとともに、全体的な一貫性を確保した。

「BlackLine で作業をやり直したり、再度データを入力したりすることは、移行に伴う大きな懸念事項の一つでした。しかし、実際にはやり直しは一切ありませんでした。過去の照合結果や用途、手順などを維持することができたからです」

—ダグ・トランプ チューリッヒ・ノースアメリカ 財務システム&業務改革担当ディレクター

導入後の成果

■ S/4 HANA への移行を 2 年で、予算内で納期通りに完了

チューリッヒは ERP 移行に BlackLine を活用することで、移行の過程の透明性を維持するだけでなく、スタッフを増員することなく作業量の増加に対応することができた。また、BlackLine のデータマッピング機能により作業のやり直しを防止できたことも大きな役割を果たした。

チューリッヒは現在も、業務の複雑性を軽減し、より機動力のある組織づくりを続けており、顧客の期待に応える能力を日々向上させている。新たなトレンドを理解し、それに対応しようとする取り組みの中で、チューリッヒチームは BlackLine のような革新的なソリューションと出会い、その結果、効率的に顧客をサポートして、新しい商品やサービス、ソリューションを提供できる組織となっている。

「チューリッヒが SAP S/4HANA を導入するのにかかった期間はわずか 2 年です。これはかなりの短期間だと言えます。BlackLine のおかげで、新システムの導入プロジェクトが管理しやすくなり、効率的に進めることができました。SAP S/4HANA への移行前に BlackLine を導入することをお勧めします。BlackLine は、旧システムから新システムに移行した勘定残高の検証だけでなく、内部統制管理にも大いに役立ちます」（トランプ氏）

■ 3 つの補助元帳の勘定照合を 98% 自動化

多くの企業にとって、新しいプラットフォームへの移行や新しいポリシー・規制への適応は、何年にもわたる作業負荷の増大につながる可能性を意味する。その間、複数の元帳を並行して運用していかななくてはならないからである。しかし、トランプ氏は次のように語る。「複数の補助元帳を並行して運用しながら、照合作業の 98% を自動化することができました」

「毎月の勘定照合の作業量が 160% 以上増大すると予測していましたが、BlackLine の自動化機能を導入したことで、補助元帳の 98% の自動照合が可能になりました。増加した分の業務量を自動化できたため、会計スタッフを増員したり照合頻度を減らしたりする必要はありませんでした。また、業務効率の向上により、確実にコストを削減することができました」

■ 追加のデータ入力や作業のやり直しなしに

新旧システム間の継続性と透明性を維持

SAP S/4HANA に限らず、新しいシステムに移行する際に必ず生じる課題の 1 つが、一貫性と履歴情報の維持である。チューリッヒでは BlackLine をシステム移行のコントロールセンターとして活用することで、勘定科目コードやその他のマスターデータに変更があった場合でも、過去からの照合結果や履歴情報に即座にアクセスできるようになっている。

このアクセス性の高さが、SAP S/4HANA への移行中のコンプライアンス維持に重要な役割を果たした。「BlackLine は、システム移行時の信頼性と継続性を確保する原動力となりました。当社の監査人にも大変好評でした」とトランプ氏は語る。

チューリッヒにとって、それと同じくらい重要だったのが、追加のデータ入力や作業のやり直しをすることなく、新旧システム間の継続性を実現し、チームの作業時間を大幅に短縮できたことだった。「すべてを手作業で行う必要はもうありません。新旧システムの継続性のおかげで、作業がとても快適になりました」

■ 成長への準備が整い、効率向上が実現

チューリッヒ・ノースアメリカでは現在 SAP S/4HANA が本格稼働している。トランプ氏のチームは BlackLine の機能を拡張して、勘定照合以外の業務にも運用することを検討している。

「BlackLine のマッチング機能には何年も前から注目していましたが、まずは ERP の導入を優先的に行う必要がありました。SAP S/4HANA が稼働し始めた今、マッチング機能導入に向けて準備を進めています」(トランプ氏)

BlackLine について

BlackLine は、経理・決算業務を効率化し、決算の早期化と正確性の向上を可能にする経理業務変革プラットフォームとして、4,000 社以上の企業から信頼を集めています。BlackLine はクラウドベースのソリューションや市場をリードするカスタマーサービスを提供し、データやプロセスの統合、反復作業の自動化、可視化によるアカウントビリティの強化を含めた企業の会計システム移行を支援しています。BlackLine が提供する決算業務管理、会計自動化、グループ内企業間のガバナンス構築等のソリューションは SAP の決算業務ポートフォリオに統合され、SAP システムの拡張機能として利用されます。BlackLine ソリューションは SAP ソフトウェアを補完することで、あらゆる業種の企業における会計業務の効率化・高速化を図り、内部統制の強化をサポートします。

BlackLine に関するお問い合わせはこちら：<https://www.blackline.jp/contact/>

経理お役立ちブログはこちら：<https://www.blackline.jp/blog/>